



今はむかしの旅

蒲池 正夫

汽車の旅がのんびりと楽しかったのは遠い昔のことになりました。私は若いころ病身で長い間親のスネかじりをやっていましたから、汽車はいつも二等車でした。ある時、三十年くらい昔のことですが、その頃は広島にいましたので久しぶりに関門海峡を渡って鹿児島本線に乗りこみましたら、二等の乗客は私の外に二、三人しかいなくて、私の座席の前には上品な中年の紳士が坐っていました。お互に黙って本を読んでいたが、そのうち私は何故だかその紳士が京大教授の新村出さんではないかという気がして来ました。フト網棚のトランクを見上げると果してI・Sとイニシャルがつけてありました。汽車がやがて博多駅に近づくと新村先生は洗面所に行って洗顔をして来て、髪に香水をつけきれいに髻をかけワイシャツと上着と靴下でも着換え

られました。ずいぶん身だしなみのいい方だなあと改めて感心しているうちにブラットホームには入ります。多勢の婦人が出迎えているのに怒越しに会釈をしてトランクをさげようとする先生に、新村先生でございませう、お荷物を窓から下してさし上げましようと申し上げたら、一寸驚いた風で、失礼ですがどなたさまでしようかとさかれました。こちらの名前は申し上げなかつたが、いつか先生と再会する折があったら、その時のごときとお話してみようと思いつつ遂に果しません。もう九十才にもなられませうか。

袖ふり合うも他生の縁といいますが、幾百人となく汽車の中で向い合せになりながら遂にお互に名乗りもせず、その時何となく楽しい会話を交して別れて、二度とこの世で逢うこともない縁というもの不思議に思うことがあります。いまから十数年前名古屋駅で松葉杖をついて乗って来た紳士と乗り合せたことがあります。戦傷かと思つたら神経痛で一年の半分くらい脚が不自由になるといふことで、織維会社の専務の肩書の名刺をもらいました。問わず語りにきいてみると、その人の娘さんが、そのころまだ幼稚園にも上っているかいないかでしたが、世界にも珍しい一卵性双生児で、この二人の娘に女中をつけて東京に住わせ声楽や舞踊を習わさせている、映画にも一寸出たことがあるというのです。私が徳島で

映画や演劇の世話をしているときいて、ぜひ徳島に招んでくれたらギヤラも何もないといつて後で映画に出た時のスチールを送って来ました。双生児の子供を招んでも仕方がないと思つてそのままになりましたが、それが何年も経つて有名になったビーナツ姉妹だったので。この間宮崎の西原古墳群を見に行きましたが、ニニギノミコトやコノハナサクヤヒメの陵墓におまいりしていると、広い野の果に轟いてジェット戦闘機が飛んでいます。マッハ2というから東京まで二十分で行つてしまふやうです。地上では日本国中観光ブームで旅客がごつたがえし、天空にはこういうスピードで飛行機がとんでいる。私は昔ののんびりした旅の風情がこのころしみじみなつかしく、あの時この時と思ひ出されて来るのです。(熊本県立図書館長)



衣食

足りて

山田啓代

衣食足りて礼節を知る」と言つたのは昔の事で、当節は衣食足りて少年非行が激増している。太平洋戦争末期頃、小学校に入つたばかりで「欲しがりませぬ勝つまでは」等という状況をたまたみこま

た私達の幼少時代もいささか衰れではあつたが、実に盗りやすい仕組みで品物が絢爛と陳列されているスーパーという名の店で、チョコレート、ガム等をズボンのポケットにいっぱい押しこんで補導される子供達も又違った意味であわわである。必ずしもお腹が空いていたわけではないし、母親に言えはお小遣いが貰えないわけでもない。それでも彼らは商品を黙つてポケットに押しこんでしまふ。罪の意識の欠如と共に、欲望に対する抑制のブレーキのきかない子供が何と多いことである。つい先日、中学時代に数回の窃盗を重ねて補導された事のある少年が、県外の就職先から戻つてきて今度は恐喝をした。自分のした事は悪い事だ悪い事だと一応認めながら「そらばつてん。名古屋から戻つてからいつちよん面白なかもんだけん。それにゼニのなかつたけん」そう言つて頭をかく少年を見てかなくなつた。九年間の義務教育が果してこの少年の場合、社会に適応出来る人間を作る面で何程の効果をあげ得ているか。少年自身の素質や自覚もさることながら、この少年が育つ過程で接触してきた家族乃至先生、あるいは社会人すべてが、こうした自己本位な考えしか出来ない人間を育てあげた無能さを恥じなければならぬと思つた。昨年、ステレオまで備えた贅沢な下宿を溜り場にして仲間で飲酒喫煙、更には

女子学生を含むピンクグループをつくつていた少年を補導した際、郡部に居るその少年の父親は無難作に、他に泥棒でもしたのならともかく、女関係ぐらいなら宜しゆうございませうと言つた。こんな親をつかまえて、うちのおやじは話せる、というのでは余りにも情けない。

更に又、親の洋服や、指輪類を持って家出した娘の保護願いに来た母親が、「自分は務めが忙しいので手ははずせないけど、直ぐに見つかりませうでしょう。あの指輪はまだ一度も使つた事がないから、等と平気でおつしやる。大切なのは家出した娘ではなくて、持ち出された指輪類なのだというふうにきこえてくる。

銀も黄金も玉もなにせむに
優れる宝 子にしかめやも

と詠んだ万葉人の感覚は当然ながらここにはない。せつばつまつて「こんな下手に負えない子供は少年院にでもやつてくれ」という親。「お前のように悪い奴は退学だぞ」という先生。いずれにも、少年を結果的にしろそのように教育した自己の至らなさを反省しようとする謙虚な姿勢が見られない。少年はいつも自分だけの責任で「非行少年」というレッテルを背負つて私達の前に登場してくる。

しかし生れながらに非行があるのではなく明らかに非行少年は作られていく。衣食足りたところで、もう一度その辺のところを反省し直してみたいものであ

(熊本県婦人警察員)



道路

緒方 昇

一本の白い道があつた。黒い影をおとしていた。乗合い馬車や荷馬車や、人のひく荷車や、旅の人や近郷の人がおつていった。バスは、まだなかつた。大正のころである。春ならば、菜の花が咲いて、揚げヒバリの声がうるさいくらい。沿道の民家は、ほこりで真ツ白な表の戸を固くとさしている。夏ならば、ほこりをかぶつた茎や葉っぱの間に、ふしぎなほど鮮烈な夾竹桃の花が咲いた。道の片側を井手のながれる、榎並木の部落にはいると、店屋の前だけに打ち水がしてあつて、つき井戸のなかには、ラムネだのどろてんだのが冷やしてあつた。川尻往還とか、木山往還とかいった風景である。

その往還を歩いて、熊本市内にはいると、唐人町や細工町のような間屋街の道は、活気にあふれていて、荷ほどきした薬くずや包装紙を蹴散らして、人々は忙がしそりに立ち働いていた。夕方になると、道はきれいに掃き清められて、森閑と撒き水がしてあつた。

昔の人は、今の人たちよりも、道をだいにじにしていたのではあるまいか。私の知つている門司の老舗は、道に敬語をつけて「おみち」と呼んでいた。「おみちで遊んではいけません」などといった。いまは新興宗教の人たちだけが、「おみち」「おみち」という。

先日、車で裏盤梯から猪苗代湖をまわつて会津若松に出た。若松はさがに古い城下町だけあつて、町の人が家々の前の舗装路をきれいに掃除していた。紙くす一つ落ちていないのには感心した。

若松から日光街道を山王峠に出て、川治温泉、鬼怒川温泉をとおり、宇都宮線由で東京に帰つた。山王峠の頂上が福島県と栃木県の県境で、福島県側の道はよく手入れがしてあり、砂利道ながら四〇キロの速度で快適だったが、一歩、栃木県に入ると、川治まではゴロタ石のものすごい悪路で、わざと補修を怠っているのではないかと思われた。あとで聞いた話によると、東京から川治温泉まで車で約四時間、その先き道がよいと、ドライパーは猪苗代や裏盤梯の温泉につき抜け、鬼怒川や川治温泉に泊る客がいなくなるので、県の方針で、川治から先きは悪路のまま放置してあるとのうわさである。

そういえば、熱海と伊東との間の山道に「一カ所、落石注意」の立て札をたてて、四六時中、道路工事をしてる難所がある。いつ通つてみても工事中で、不

愉快だ。ところが、これは熱海の旅館業者が、熱海を素通りして伊東から伊豆へゆく車のお客を通せんぼうするために、共同出資して、道路工事の建設業者にわたりをつけているとのうわさである。旅行者にとって迷惑な話だ。

富士五湖めぐりなどをしてみると、東京都、神奈川県、山梨、静岡県などと、行政区域がかわるたびに、道路の状態がひどくかわることがある。よい道はどの県、悪い道はどの県と、標識をみないで目をつぶつていても、すぐわかる。県によつて、道路にたいする気の入れ方がちがうのである。九州各県のうち、熊本は道路の評判はどうであらうか。

このあいだ、久しぶりに帰郷して、国道三号線を水俣まで行つてみた。三太郎峠のトンネルが開通したと聞いたからである。日曜日の早朝、雨のせいもある、日ごろ混雑する国道も熊本を出ると、閑散として無人の道を行くようであつた。車輪のスリップにさえ気を付ければ、こんな快適なドライブはなかつた。八代、日奈久と過ぎて、ふと、路傍に建てられた真新しい石の地藏尊を見た。それは、学童の等身大に刻まれてあつた。いたましい交通禍の犠牲者がここにもあつたのである。小さな地藏さんにかぶせてあつた野球帽の黄色が、いつまでも頭に残つて困つた。

(熊本出身、在京の詩人)